IUFRO-J NEWS
No. 60 (1997.2)

就任にあたって

IUFRO-J議長　大　貫　仁　人

小林一三前議長が昨年10月1日付で森林総合研究所をご退官した後を受けて，幹事機関の個別的なご了承のもとでIUFRO-Jの会務を引継いで参りました。本年4月2日の九州大学で開催される機関代表会議において正式に承認していただいた後，議長を引き受けることになりますのでよろしくお願い申しあげます。

ところで，1992年の「地球サミット（UNCED）」以降，持続可能な森林経営の達成に向けてその具体的な取り組み方策等が国連持続可能開発委員会（CSD）の中に設置された「森林に関する政府間パネル（IPF）」で検討されており，その結果は本年6月の「環境と開発に関する国連特別総会」で集約される予定となっています。このような国際的な様々な取り組みが進められている中で，ユフロにおいても第8部会「森林環境」やTask Force「Sustainable Forest Management」が設置され活動が開始されており，日本からの貢献も期待されています。

一方，タンペレ世界大会で協力要請された「SylvaVoc（森林用語）プロジェクト」については，日本政府からODA予算の拠出が決まり，それを受けてIUFRO-Jではこのための技術面の協力を行うこととし，日本林学会と日本木材学会の全面的な協力のもとで，SylvaVoc-Jの事務局を引き受けることとなり（IUFRO-J News No. 59参照），このための活動を開始いたします。

また，本年はタンペレ・ユフロ世界大会以降2年目になり，2000年のマレーシア大会へ向けて，国際的な研究集会の開催を含めたいろいろな活動が盛んになります。

このようないろいろな場で，我が国の研究者が十分に活躍できるよう微力を尽くしたいと念じています。

終わりになりましたが，本会の運営に3年間にわたってご尽力いただいた小林前議長に心からお礼申し上げるとともに，今後とも会員の皆様のご支援をお願い申しあげます。

退任のご挨拶

前議長　小　林　一　三

1993年10月に勝田柾氏の後を継いでから丁度3年たちましたが，この度議長の任を退くことになりました。この任期中に1995年8月にはフィンランドのタンペレ市でユフロの第20回世界大会が開かれ，またユフロ関連の研究集会がいくつも世界各地で開催されました。IUFRO-Jでは年に3回のニュースを発行してこれらに関する情報を会員の方々にお知らせしてきました。また，日本林学会の大会に合わせて年1回の総会を開きました（開催地は東京農工大学，北海道大学，筑波大学）。また，この3年間で事務局を担ってくださった方が，山家義人氏から加藤隆氏へ，さらに昨年8月から森貞和仁氏に代わりました。これらの方々の献身的なご尽力に心からお礼申し上げます。

長い間の会員皆様方のご協力に感謝いたします。

山岳林集材作業とスカイラインに関する国際シンポジウムに参加して

東京大学農学部　酒　井　秀　夫

山岳林集材作業とスカイライン（架空索）に関する国際シンポジウムが，1996年5月13～16日，カナダ，バンクーバ島の東海岸中央部に位置するキャンベルリバーで開催された。キャンベルリバーは林業・林産業の他に漁業も盛んで，北海道石狩市と姉妹都市になっている。シンポジウムは宿舎も含めてPainter's Lodgeを貸切って行われた。Painter's Lodgeは板ぶきの瀟洒な木造の建物が幾棟か立ち並ぶ海辺のリゾートホテルである（写真-1）。キャンベルリバーは，サーモンフィッシングの世界の首都と自負しているだけに，今回，特別に釣りのツアーが用意されていたが，釣りに行ったという人も，巨大なサーモンを釣り上げたという話も聞かなかった。沖合には，ハリウッドのスターもお忍びで訪れるとガイドブックにあるクワドラ島が横たわっており，フェリーで15分くらいで渡ることができるが，会期中に往復してくる時間的余裕もなく，緑に覆われた姿を眺めるだけであった。

このシンポジウムは，ユフロの3.06部会が後援し，主催はブリティッシュコロンビア大学（UBC）とバンクーバ市にあるカナダ林業工学研究所（Forest Engineering Institute of Canada，略称西部FERIC）である。それぞれを代表してNelson教授，Krag氏が議長役を献身的に務めておられた。参加登録，会費の納入は，バンクーバ島のナナイモ市にあるBC Forestry Continuing Studies Network がアレンジし，マラスピナ大学のDonna Kist嬢が窓口となっていた。約200名もの参加があり，北米からの研究者，現場技術者が大半を占めていた。モントリオールにある東部FERICからも大勢駆けつけていた。海外からは，スイス，ニュージランド，コロンビア，スリランカから1～2名，日本からは小生と，京都大学の吉村哲彦氏，同じくインドネシアの留学生Seca Gandaseca氏が参加した。参加者はそれぞれに第1線の技術者であり，お互い顔見知りで興味の対象も共通であることから，発表に対する質疑や自説の披露も活発で，発表が終わるや，聞き取り不能なマシンガンスピーキングが飛び交っていた。質問者の自論の展開が延々続くと，座長が上手にストップをかけ，周囲の笑いを誘う場面がしばしば見られた。

写真-1　シンポジウム会場となったPainter's Lodge

初日はセッション1として基調講演とパネルディスカッションがあった。BC州森林省チーフ森林官による基調講演では，「今の林業を取り巻く状況は複雑であり，秘書がいないと役員室が機能しないように，秘書の役割が必要である」とした上で，土地利用計画のイニシアチブを行政がとる必要があること，自治体の森林政策に対して住民が絶えず強い関心を持っていること，森林法における集材作業の規制など，諸項目の解説があり，今後の課題として，道路建設および集材方法のイノベーションが会場参加者に要請された。なお，イノベーションは，アメリカの先端産業を意識して，現在のカナダのスローガンになっているようである。「今日の社会的環境的課題」と題したパネルディスカッションでも，BC州は林業にかわる産業がないことが強調され，ここでも土地利用区分と集材作業のイノベーションが重要であることが訴えられていた。4人のパネラーからは，林業の教育の受け方，仕方が大事であること，保護地域の面積を経営面積のどのくらいにするか，森林作業による野生動物への影響，択伐作業の困難さなどが話題提供された。現地で購入した「Forestopia（森林，しかも原生林を生活の基本におくというプロジェクトの名称に由来する）」（Harbour Publishing, 1994）という書籍によれば，バンクーバ島の1961年の伐採量は3,200万m^3であり，1991年には7,400万m^3に増加したが，この間1,000m^3生産するのに2人から0.88人に減少した。我々からみるとそ

れだけ労働生産性が向上したことになるが，彼らの解釈では，伐採量が増えたにも関わらず，雇用が減ったということになる。なお，会期中，テレビや新聞では連日のように，産業伐採反対のキャンペーンや，製材業（林業的立場）vs 狩猟者（野生保護的立場）などのレポートが報道されていた。

2日目はセッション2として，現地検討会であった。大形バス4台に分乗して4つの見学コースに分かれて行われた。コースごとに造林システム，超大形機械作業などのテーマになっていたが，我々日本からの参加者はいろいろな機械が見られるというコースを選択した。土場での仕訳作業，昔のキャンプ場跡，トラック整備工場，交配ポプラの成長試験地などを見学した。写真-2の交配ポプラは6年生で，種名など詳しいことは教えてくれなかったが，8〜14年回帰で500 m³/haの収穫予定とのことである。機械としては，ハイリード・スカイライン式と現場で呼ばれていたタワーヤーダによるスラックライン式集材と，Supersnorkelという名称のロングブームを見学した（写真-3）。Supersnorkelは長さ50 mにわたるスウィングブームの下をグラップル搬器が移動するもので，林道沿の集材と巻立をワンマンで効率よく行うことを意図したものである。製作はMadill社で，見学したMacMillan Bloedel社には6台が導入されているとのことである。北米などでよく見かけるヒンジブームローダに構造がよく似ているが，このような大形機械を実際に作りあげてしまうことに敬服した。Hoechuckerという名称のグラップルローダが，Supersnorkelが集材しやすいように，林内で材の仕訳を先行して行っていた。

3日目と4日目はセッション3〜5として講演発表であった。講演発表は18件あり，詳細は森林利用学会誌11巻3号の吉村氏の報告，最終的にはプロシーディングスを参照いただきたいが，集材作業の一つの傾向として，利用間伐およびヘリコプタ集材が増えているとのことである。Krag氏との会話によれば，「ヘリコプタは一時的にはエネルギーの消費が大きいが，奥地化している伐採地まで重機を投入して林道を開設し，これを維持していくことを考えると，ヘリコプタは逆に省エネな方法である」というのがヘリコプタ業界の主張であるとのことである。このことに関しては，現地検討会などでも議論の場が予定されていたが，時間の関係で十分な討議がなされなかった。

3日目午前のセッション3のテーマは流域・林道・輸送問題であった。スイスからはヘリコプタ集材に関して，北米は1個所当たり1,000 m³以上の規模であるが，スイスでは160 m³であるとして，ヘリコプタ集材の現状が報告された。林道網全体を考えた排水処理のデザイン，皆伐跡地における林地残材による土石流の危険度評価，樹高と標高を指標に水文学的立場から見た流域の持続的な伐採率決定の試みなどが報告された。

午後のセッション4のテーマは収穫・造林システムであった。間伐作業が5年間で35%増えており，連邦機関も間伐を立木管理の手段として位置づけているという発表があり，自社の集材手段の最近の変遷や，スウェーデンと北米の利用間伐の能率の比較に関する報告があった。急斜地や傷つきやすい林地に対する作業計画の報告があり，後者では，ヘリコプタ集材と部分伐採が方法として紹介されていた。

3日目の夕方はポスターセッションがホールで行われた。日本からは吉村氏と小生が発表した。会期も3日目になると，欠席者も少なくなかったようであるが，会場では小さな串に刺した簡単なスナックのサービスがあり，参加者はビールなどの飲物を購入して，これをつまみながらポスターを冷やかして回る趣向であった。アルコールが潤滑剤となって，終わる頃には懇親会になっていた。小生は，小形タワーヤーダと林内で枝払いを行う機械の組み合わせ作業について発表したが，カナダでも

写真-2　交配ポプラ（6年生）

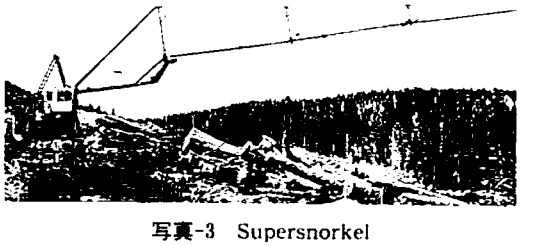


写真-3　Supersnorkel

小形機械を研究している人には興味をもっていただいた。

4日目午前のセッション5のテーマは計画・経営であった。日本からはGandaseca氏がパワーショベルをベースに開発したスウィングヤーダの紹介をした。コストに関する質問があり，日本のコストの現状に会場が一様に驚いたが，「インフラストラクチャも含めて，コスト計算の前提が異なるので，単純なコストの比較は危険である」という座長のタイムリーなコメントに会場が静まる一幕があった。スカイライン集材に関しては，前々日の現地検討会でも見学したように，架空索によって材を完全に吊り上げる方式が環境面で見直されてきているとのことで，架空索設計に関する報告が1件あった。GISを応用した土地利用区分，森林作業を行うときの先住民の文化遺産に対する配慮，育林効果や集材コストから見た伐区のレイアウトの評価などの発表があった。

各セッションの後に発表者一同が壇上に招待されて，拍手とともにNelson教授から木箱に詰められた鮭缶2個を記念にプレゼントされていた。16日の正午に閉会となったが，Nelson教授が日本から来た我々の方に向かって壇上から降りてこられ，思いもかけないことにこの鮭缶をプレゼントされた（写真-4）。最終日はフロントに荷物を預けておき，閉会と同時に会場を出て，バスでひとまずナナイモへと向かい，帰途についた。バンクーバ市郊外ではカピラノ渓谷とセイモア見本林に立ち寄り，ダグラスファーなどの針葉樹が鬱蒼と林立する温帯多雨林の中を，文字どおり小雨に降られながら散策することができた。

写真-4　記念の鮭缶

このシンポジウムは3年ごとに開催され，次回は1999年3月にオレゴン州立大学で開催される。

森林と環境に関する国際シンポジウムに参加して

東京農工大学農学部　生　原　喜久雄

1996年11月4日から6日にかけて南京林業大学と東京農工大学との共催による森林と環境に関する国際シンポジウムが南京林業大学（南京市，中国）において開催された。(IUFRO-J News, No 59, p 18参照)。

中国以外の参加国は，フィンランド，日本，インド，インドネシア，マレーシア，ネパール，スエーデンで，総参加者数は46名であった。日本からは木平（今回のVice-Chairman，東農工大），星（林木育種センター），高木（九大農），呉（東農工大農），戸田（東農工大農）と筆者の6名であった。

3日間に45件の口頭発表が行われた。主なセッションは生物多様性とその保護，環境汚染と生態系，アグロフォレストリーと土壌保全であった。

日本からの参加者による発表は，Public involvement in planning process（木平），Nutrient cycling in a forest watershed of Japanese ceder and cypress（呉・生原），Urban micro-climate and photosynthesis of street trees（高木・玉泉・齋藤），Characteristics of nitrogen minerarization in forest soil（戸田・生原）であった。

中国側では，南京林業大学の若手教官による発表が非常に多く，今後の中国の大学の急速な発展と国際化への意気込みが感じられた。発表論文は「The Proceedings of '96 International Symposium on Forest and Environment, Nanjing, P.R. China」として印刷される予定である。

3日間は毎回，豪華な中華料理を堪能し，快適なホテルでの宿泊であった。食事の度に違った中華料理で，料理の種類の多さ，奥の深さに感動し，また強いリキュールと料理のコンビネーションのよさのため，ついカンペイをくり返し，下手な英語や通訳による楽しい一時を過ごすことができた。

写真-1　シンポジウム会場での記念撮影

ポストエクスカーションは，7日から13日にかけての6日間の中国の東部・南部に位置する風光明媚な南京→無錫→蘇州→杭州→上海のバスツアーが計画されていた。しかし，日本からの参加者は，それぞれ他の目的等のため，参加しなかった。日本人の不参加がわかると外国の参加者は非常に残念がり，大変申し訳ないことをした。やはり，このような企画にはできるだけ参加すべきと思われる。

今回，大変良かったことは，若い中国の研究者の研究に対する熱意に触れることができたこと，多くの中国の研究者と面識ができたことである。また，国際シンポジウムを開催する場合，余りナーバスにならず数人の実行員によって実施できることを教えていただいた。

この場を借りて，南京林業大学の趙学長，実質的な実行委員である，施副学長，森林資源・環境学院の院長である曹教授および若い研究者に対して厚くお礼を申し上げる。

森林と環境に関する国際シンポジウム（International Symposium on Forest and Environment）参加報告

東京農工大学農学部　戸　田　浩　人

1.　はじめに

1996年11月4日～6日の日程で，中国・南京市の南京林業大学において，南京林業大学，英国生物科学センター，東京農工大学の主催による上記の国際シンポジウムが開催された。中国からの参加者の他，日本，インドネシア，マレーシア，インド，ネパール，フィンランド，スウェーデンから約50名の参加があった。シンポジウムのテーマは，「生物種の多様性と保護」および「環境，公害と生態系」に大別され，研究発表件数が30件，そのうち日本からの発表が4件あった。

中国国内以外の参加者は，11月3日に南京市内のホテ

ルで参加手続きを行い，本大会のプログラムの配布などを受けた。シンポジウムは，11月4日の午前9時より開催された。オープニング・セレモニーでは，本大会のチェアマンである南京林業大学学長の趙奇僧教授より，本大会の意義と中国の森林と環境の現状が述べられた。

2. 研究発表の紹介

発表プログラムは，キャンセルや差し替えが多く，大会当局はかなり苦慮していた。結局，最終的なプログラムは発表日の午前・午後ごとに配布され，そのプログラムですら2，3変更された。したがって，当初テーマごとに組まれていたセッションには，特にこだわりなく発表が進められた。ここでは，主な発表を（順序を無視して）大別してご紹介する。

森林における生物種の多様性に関しては，基調的な発表として，「生物種の多様性と自然に適応した更新」（Y. Norokorpi フィンランド），「インドにおける森林の生物種の多様性」（J.B. Lal インド）があった。さらに遺伝子レベルの多様性の研究として，「裸子植物におけるミトコンドリア遺伝子異常に対するRNA転写の影響」（M. Lu スウェーデン），「遺伝子の多様性その推定と変動」（N. Yi 中国），「中国南東部におけるポプラの遺伝資源とその利用」（S. Yu 中国），などの発表があった。生物種の保護や多様性の保全という視点からは，「生物種の多様性の構成要素と測定法」（M. Liu 中国），「中国ハンテンボクの生態的な保護」（Y. Fang 中国），「イチョウの花粉の特性」（F. Cao 中国），「Taxus mairei（イチイ科）の危機と保護対策」（Z. Su 中国），「中国の過湿地における植物群」（X. Li 中国），など中国からの報告が多くなされた。今日の人間活動による地球環境の悪化や熱帯林をはじめとした森林破壊に対し，森林における生物種の多様性や遺伝子資源の保護は，中国においても強い感心事であることがわかる。

一方，人類には地球規模の爆発的な人口増加に対し，食糧生産の確保のため，森林等の未利用の土地を開発しなければならないという課題がある。森林の環境と土地の有効利用という面から，アグロフォレストリーに関する発表も多かった。基調的な発表としては，「ネパールにおけるアグロフォレストリーの現状」（B. Prasad ネパール），「マレーシア，サラワク州におけるアグロフォレストリー」（J.J. Kendawang マレーシア）があった。より具体的な，アグロフォレストリーの事例的研究としては，「茶木の樹下植栽システムの調査と適用」（J. Xue 中国），「新種ポプラの樹下植栽におけるバイオマス生産と品質および経済性」（S. Fang 中国），「ココナッツ林へのパイナップル導入アグロフォレストリーの生産力と養分循環」（F. Peng 中国），などが発表された。アグロフォレストリーは，林地で農産物を生産して森林を多目的に利用する場合と同時に，過湿地や半乾燥地および海岸風衝地などの環境条件の悪い未利用の土地に，森林を造成することで環境を安定させ，林地の内側で耕作などを行えるようにする方向性も検討されている。

この森林の環境に対する役割や影響に関しては，「土地資源の利用と大規模な気候変化の解析」（H. Wang 中国），「都市の微気候と街路樹の光合成」（M. Takagi 日本），「海岸堤防における主な森林タイプの土壌浸食防止機能」（J. Zhang 中国），「海岸防風林の効果と役割」（H. Hu 中国），などの発表があった。森林の存在は，地域の気候などにダイナミックな影響を及ぼす。その一方で森林の生理・生態は，微気候などのわずかな環境にも影響を受ける。環境条件の悪い未開発の土地は，アグロフォレストリーなどで利用拡大を図らなければならないが，劣悪な環境下での森林造成には，人間の大きなエネルギーの投入と技術開発を必要とする。

そのような森林造成のための基礎的な研究として，立地関係では「中国・広葉杉幼齢林への施肥」（Y. Yu 中国），「中国マツとコノテガシワの混交林の有益性」（Z. Zhao 中国），「スギ・ヒノキ林小流域の養分循環」（G. Wu 日本），「キリ造林地の年間養分吸収の法則性」（Z. Sun 中国），「丘陵地における3つの森林タイプの炭素循環」（H. Ruan 中国），「森林土壌の窒素無機化特性」（H. Toda 日本），などが発表された。また，社会科学的な視点からは，「森林計画作成の過程における公の掛かり合い」（Y. Konohira 日本）の発表があった。

以上のように，発表内容は多岐に渡っていた。このことは，森林の利用と維持・保全を図るために，様々な分野から「森林と環境」の関係を解析するためのアプローチが行われていることを示している。現在そして今後も，「森林と環境」は人類にとって重要なキーワードであると思われる。

3. 感　想

今回のシンポジウムは，大規模な大会でなかったためか，発表時間などあまり気にしないような，終始なごやかな雰囲気であった。発表者も中国の若手研究者が多く，精力的な研究態度と発表に感動した。筆者も含めて，日本の若手研究者も，機会を見つけてどんどん世界へ出ていくべきであると感じた。

残念な点として，中国の若手研究者の多くは，OHPなどの作り方が悪く，論文をそのままコピーしたようなも

のがほとんどであった。筆者は自身の英語力のなさも含めて勉強不足で，専門分野以外の発表を聞くだけで理解することが難しかった。できれば，見やすくわかりやすいOHPなどのビジュアルを用いた発表を希望したい。

4. おわりに

国際学会における研究発表は初めてであり，非常によい経験になった。筆者の発表は，事前の連絡で6日に予定されていたが2転3転した。参加申し込み（3日）時点で5日に変わっており，大会の始まった4日の昼食時には，4日の午後に発表するように言われ，いささか焦ってしまった。また，発表内容が多岐に渡っていたため，すべてを理解するにはとうていおよばなかった。しかし一方で，世界の（特にアジア地域の）研究者が何に注目し，どんな研究をしているのか概括的に知ることができ，大変有意義であった。

3日間のシンポジウムの後，中国の東部から南東部をめぐる6日間のエクスカーションが実施された。残念ながらスケジュールの関係で，筆者を含めて日本からの参加者はいなかった。森林や環境に関する研究は，デスク・ワークも大切であるが，何と言ってもフィールドでいかに多くの森林や事例を見て，そこに住まわれている人々と森林との関係を知ることが重要である。次の機会には，ぜひ中国の南東部の森林をめぐりたいと思う。

写真-1　研究発表の様子

最後に，南京林業大学の皆様の心のこもったお世話により，多くの思い出を残すことができました。ここに記して感謝いたします。

FORTROP' 96 International Conference on Tropical Forestry in the 21st Century に参加して

森林総合研究所　田　中　　浩

1. 集会の概要

1996年11月25日から29日にかけて，タイ，バンコク郊外のカセサート大学において，カセサート大学林学部，王室林野局，タイ国家研究評議会の共催で，"FORTROP '96 21世紀の熱帯林業にむけての国際集会"が開かれた。スポンサーとして，ASEAN森林樹木種子センター，アジア・パシフィック・アグロフォレストリー・ネットワーク（APAN），BIO-REFOR（IUFRO/SPDC），国連食糧農業機構（FAO/RAPA），地球マングローブ救済研究協会（REAGMANS），科学技術庁（STA），タイ観光協会（TAT），フォード基金が名を連ね，それぞれ独立したシンポジウムがゆるやかに連合するといった趣の集会となった。冷房が強烈に効いたできたてのピカピカな会議場で，初日は"すべて"，そして"連日，午前と午後の2回"，大講堂でシンポジウム共通の基調講演ないしパネルディスカッションが行われた。国際会議につきものとはいえ，ずいぶんとおおげさな形式の集会なので面食らったが，これがタイのスタイルなのかもしれない（という人がいた）。参加者は，アジア諸国とオーストラリア，欧米，アフリカなど33カ国から学生も含め502人（主催者発表），日本からの参加者がタイ人に次いで多いのが目だった。

開幕の挨拶と講演は，チュラポーン王女（国王の3女）がされるということで，参加者は開始30分前までに入場，おつきの方とともに王女が入場，全員起立と着席の繰り返しで，学会というよりはまさにセレモニーといった感じの始まりであった。しかし，「タイの薬用植物の生理活性化合物」と題した講演は，抗マラリア剤の話題から熱帯植物研究が貢献できる方向への提言を含むアカデ

ミックなスタイルの立派なプレゼンテーションであった。

初日の基調講演は，タイの上院議員で環境研究所所長ティラ氏による「21世紀の持続可能な熱帯林経営」とエール大学バーチ博士「21世紀の熱帯林業研究・教育への挑戦」の二つ，他に「熱帯アジアにおける林業教育」と題したパネルディスカッションがマレーシア，ベトナム，フィリピン，インドネシア，タイ各国の大学林学部長によって行われた。その後は，個別のシンポジウムのあいまに，2日目にアメリカのジンク博士による「熱帯の保護区の管理」，森林総研の桜井博士による「熱帯における人工林施業」，3日目に台湾のウー教授による「熱帯における木材利用」，フィリピンのヴァーガラ博士による「熱帯における土地利用」という講演が行われた。私は，この時間帯，もっぱらポスターセッションの見学や他の参加者との懇談にせいを出していたので真面目な聞き手ではなかったが，いくつか覗いた基調講演では，大講堂で大勢の聴衆が熱心に講演に耳を傾けていた。

シンポジウムは，「熱帯と地球規模の環境変動」，「民俗生物学」，「生物工学と森林復元（第5回BIO-REFORワークショップ）」，「公園と保護地域」，「集水域管理の将来」，「社会林業・アグロフォレストリー」，「林産物利用」，「第6回ワチャラキティリモートセンシング」，「マングローブ生態系」「アセアン林学学生連合会議」の全部で10が，比較的こじんまりとした会議室を使って通常の学会に近いスタイルで行われた。

集会終了時には，FORTROP '96宣言が採択され，熱帯林の持つ多様な意義，熱帯林の管理のための伝統的な知恵と科学的な研究成果の統合の必要性，森林研究と林学教育の果たすべき役割，国際的協力の重要性などが確認された。

2. シンポジウム「熱帯と地球規模の環境変動」

私は，日本の科学技術庁とタイ国家研究評議会のジョイントプロジェクト「熱帯林変動」のもとでの研究成果を発表したこともあり，このプロジェクトを中心としてセッションが構成されたシンポジウム1「熱帯と地球規模の環境変動」に主として参加した。このシンポジウムは，「気候変動」，「炭素及び養分循環」，「多様化した土地利用」，「植生の動態」と題した4つのセッションによって構成された。プロジェクト参加研究者によるタイをフィールドとした成果が多く発表されたが，他にインドネシア，フィリピン，アメリカ，フィンランド等の研究者による発表も加わり，内容は多彩であった。

1日目午前の「気候変動」のセッションでは，熱帯林に対する気候変動の影響の評価へのシミュレーションモデルの利用，タイにおける気候変動と森林の関係，季節林による二酸化炭素吸収量の評価に関しての発表があった。午後の「炭素及び養分循環」のセッションでは，スマトラの熱帯雨林でのリターによる養分供給，タイ季節林における養分環境と土壌微生物の活動，タイ季節林における有機物の動態，チーク造林木の光合成と樹幹呼吸，タイ季節林におけるVA菌根菌の分布，タイにおける炭素収支の社会経済的評価，タイの森林炭素貯留量の評価のためのバイオマス調査に関する諸発表が行われた。特に午後のセッションでは，具体的なデータを豊富に示す地道な研究も多かったが，発表に熱が入るあまり時間を大幅に超過するケースが続出し，十分なディスカッションの時間がとれなくなることが多かったのが残念であった。

2日目午前「多様化した土地利用」では，タイにおける土地利用と森林地域の変遷，衛星イメージによる熱帯季節林の森林分類，熱帯林における土地利用の変化と土壌，ユーカリ人工林の伐採前後での土壌の変化，サケラートにおける長期生態研究の重要性について発表があった。最後のカリフォルニア大学ランデル教授による，これまで研究の比較的少ない熱帯季節林という特徴的な植生タイプにおける長期生態研究の重要性の指摘は，特に同じような視点でタイの仕事をしている私にとって我が意を得たりという感じであった。午後の「植生の動態」では，西タイの植生と植物相，火災と気候変動がタイのマツ天然林の更新及ぼす影響，タイの熱帯季節林における実生の動態と土壌水分環境，天然及び攪乱を受けたタイの季節林の構造と動態，タイの落葉混交林の下層植生の動態，タイおよび東南アジアの森林における酸性雨の影響について発表された。天然林に関する発表の中で，落葉混交林，マツ林いずれのタイプの森林でも，季節的に起こる降雨と火災が植生の維持・更新に大きく影響しているという点が共通して指摘され興味深かった。

3. ポスターセッション，パーティーなど

ポスターは，それぞれのシンポジウムに登録した上で，会議場内のホールにまとめて集会期間中展示された。当初は自分の関連するセッションの時間までにはればよいということだったが，レジストレーションの後，25日の夕方までに各自のポスターをはるようにという指示があり，私もあわてて「タイ落葉混交林における肥大成長と落葉の季節性」というポスターをはりつけた。集会初日の26日朝に王女様がポスターツアーをされるのでというのがその理由だと後で知った。ポスターの総

数はそれほど多くなかったが，タイの大学院生なども積極的に参加していたようだった。個別のポスターセッションのための時間が指定されていなかったために著者をつかまえての議論がちょっと難しかったが，それぞれのシンポジウムごとの参加者内では十分な議論が行われていたのかもしれない。また当日になって見せられたポスターの展示スペースがあらかじめ伝えられたものと違っていたため，展示に苦労した人もいたようだ。

全体のパーティーは3つ行われたが，いずれも多くの参加者を集めくつろいだ雰囲気のものだった。25日のレジストレーションの後には，カセサート大学林学部の主催で，会議場わきの野外でのアイスブレーキングパーティーが行われた。カセサート大名物のカセサートワインがふるまわれ，参加者の緊張もかなりほどけたようであった。26日夕刻には王室林野局の主催で，カセサート大学林学部中庭において歓迎のレセプションが開かれた。参加者が野外でのバイキングスタイルの食事を楽しむ中，各国からの参加者への記念品の贈呈，スピーチの他，さまざまな国の歌なども飛び出し，なごやかに夜は更けていった。最終日の28日集会終了後には，国家研究評議会主催のフェアウエルパーティーが，大学構内の大ホールで盛大に行われた。最近タイでもポピュラーになってきた生ビールがふるまわれ，ちょっと甘いカセサートワインにも飽きた参加者の長蛇の列ができていた。ステージでタイの音楽や舞踏が披露される中，出身国や研究分野の異なる参加者の間にも様々な交流が生まれたようであった。

いくつか計画されていたエクスカーションのうち，BIO-REFORの会議後のワークショップをかねたチェンマイ，チェンライ経由北部タイへのエクスカーションのみが29日から4泊5日で行われ，すべての会議日程が終了した。ポスターセッションを含めシンポジウムでの発表をまとめたプロシーディングスが，後日発行される予定である。

アジア太平洋地域林業研究機関場所長会議/アジア太平洋林業研究機関連合（APAFRI）総会合同会議の開催および第2回APAFRI実行委員会について

IUFRO-J事務局　池　田　俊　彌

1995年2月，FORSPA（アジア・太平洋林業研究支援計画）によって召集されたアジア太平洋林業研究機関場所長会議においてAPAFRI（アジア・太平洋林業研究機関連合）が設立され，同時に会則および実行委員会の設置がなされたことについては会員の皆様もご存じの方が多いと思います。その後，1995年6月に第1回実行委員会が開催され，APAFRIの活動に関わる広範な議論の後に実質的な活動が始まりました。また，1995年10月にはIUFRO理事会において，APAFRIをIUFROの地域組織とすることが認められるに及び，IUFRO-Jにとってもは APAFRIは今後密接な関係が生じうる重要な機関と考えられます。現在，日本からは森林総合研究所が会員となっておりますが，そのほか数機関が申請あるいは検討中です。

上記合同会議は来る3月25日～28日の4日間，ヴェトナム・ホーチミン市において開催されます。前者の会議はFORSPA活動の一環ですが，今回APAFRIの第1回設立総会の参加予定者の多くと重複することもあり合同会議開催の運びとなりました。合同会議の計画は昨年9月22～23日に開催された第2回APAFRI実行委員会で話し合われたものですが，以下に同委員会の討議内容および決定事項について簡単にご報告します。

a.　加入・登録手続き：この間，APAFRIではニュースレター等の発行，他の国際機関，研究プロジェクトとの連携をはかり会員の加入促進につとめ，現在15ヶ国24機関が参加している。銀行口座が開設され，登録手続きが可能になった。タイ，ラオス，ミャンマーは加入登録申請あるいは準備中。

b.　中期行動計画の策定：ワーキンググループにより昨年5月初旬に作成され，大筋で了解された。設立総会に提示される。

c.　APAFRI事務局：現状ではFORSPAの事務局活動に頼らざるをえないが，News Letter等APAFRI独自の活動についてはパートタイムの職員を雇用し，会費から支出する。

d.　国際機関との連携：APAFRIを通じた各国研究

機関とCGIARを始めとする国際機関との連携が重要。現在CIFOR（国際林業研究センター）は加入しているが，ICRAF（国際アグロフォレストリー研究センター）は加入していない。

e. FORSPAとの連携：組織として自立するまでは，財政および事務局活動の支援を必要とし，緊密な連携が不可欠であることを認識する。

f. 会員の加入促進：1997年初頭には会員数は30を越える見込み。韓国，中国，インドネシア，ニュージーランドの加入を促す。

g. 国際研究集会への参加補助基金の創設：特に2000年マレイシアで行われるIUFRO世界大会への地域からの参加を促進するため，APAFRI内に基金を創設する。

h. APAFRI設立総会：1997年3月末，ヴェトナム・ホーチミン市において開催する。同時にFORSPAの会議，場所長会議を召集する。発足総会の討議事項には実行委員会の委員交代を入れる。

i. 優秀な研究論文に対するAPAFRI賞の創設：アジア太平洋地域の林業研究に尽力されたFAO-RAPAのDr. Y.S. Raoの功績からRao賞とする。賞の枠組みは総会に提案する。

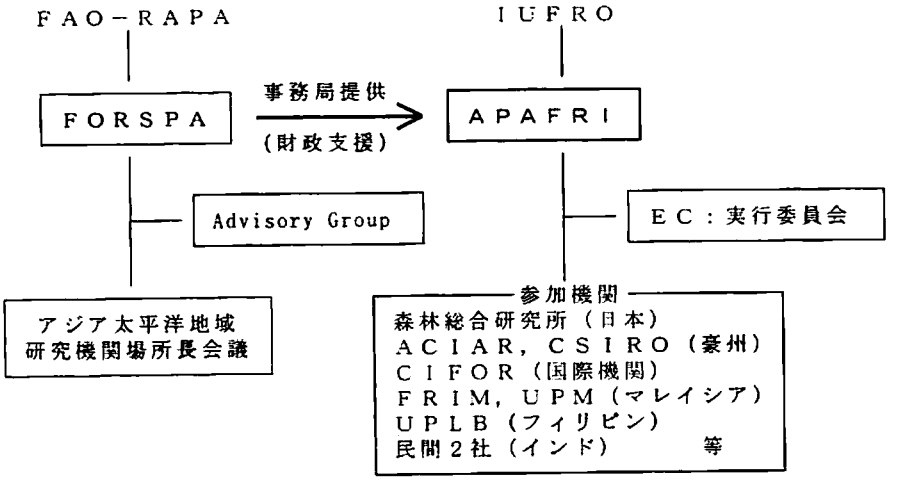
j. 研究業績の適用実施例の作成：主として成功例を各国毎に1例取り上げ，順次とりまとめて会員に配布する。

k. 他のネットワークとの連携：既存のネットワークであるTEAKNET，International Neem Network，MPTS Network等の活動と共催等の連携を強める。また，新規ネットワークの形成にも積極的に参画する。

l. APAFRI活動の分権化：基本的にデータベースの作成・管理，ニュースレター等の発行等に関しては事務局業務を分散化させるべきでないが，IUFROのように会員機関のボランテイア活動を促進する。

m. IUFROとの連携：IUFROの地域組織としての活動内容・領域を，特にIUFRO-SPDCとの連携を含め議論し合意を図る。

APAFRIは漸く設立総会を迎えることになりましたが，そこでは特に今後の運営に関して活発な論議がなされると思われます。特に，IUFROの地域組織としての活動が問われることとなるでしょう。なお，会議開催時には更にFORSPAのAdvisory Group Meetingも開かれます。これらの関係については次図を参考にして下さい。また，APAFRIへの参加等お問い合わせはIUFRO-J事務局（森林総合研究所・海外研究協力室）にお願いいたします。



APAFRI：The Asia Pacific Association of Forestry Research Institutions（アジア・太平洋地域林業研究機関連合）：1955. 2. 設立，1997. 3. 発足総会予定
FORSPA：Forestry Research Support Programme for Asia and the Pacific（アジア・太平洋林業研究支援計画）：1991-1995-1999（1995からはオランダ政府が支援）
FAO-RAPA：Food and Agriculture Organization of the Unite Nations Regional Office for Asia and the Pacific（国連食糧農業機関-アジア・太平洋地域事務所）

図　FORSPAとAPAFRIの関係

これからの研究集会予定（IUFRO ホームページ（http：//iufro.boku.ac.at/iufro/meetings/calender.htm）より，1997. 1. 21 現在）

IUFRO 研究集会

Division 1　造林

1.15.00（アグロフォレストリー）；1.15.02 / 1.15.03 / 1.15.04/1.17.00：The Science and Practice of Short-Term Improved Fallows in Humid and Sub-Humid Tropics（湿潤・亜湿潤熱帯における短期休閑改善の科学と実践）/March 11-15 1997, Lilongwe, Malawi

1.07.00（熱帯造林）：Workshop and Study Tour on Silviculture of Mixed Species Forests in the Subtropical Himalaya（亜熱帯ヒマラヤにおける混交林造林に関するワークショップ及び見学旅行）/March or April 1997, Bhutan

1.05.00（1.05.15）（森林の造成，施業，改良）；1.17.00（1.17.15）；8.02.00 Site（8.02.01；8.02.02；8.02.03；8.02.04；8.02.05）：Managing Productivity in Plantation Forestry（人工造林における生産性管理）/May 5-9 1997, Concepcion, Chile

1.15.00（アグロフォレストリー）；1.15.01 / 1.15.03：Agroforestry for Sustainable Land Use（持続可能な土地利用のためのアグロフォレストリー）/June 23-28 1997, Montpellier, France

1.07.00（熱帯造林）；3.00.00（森林作業と技術）：Symposium on Sustainable Forest Management and Low-impact Logging in the Tropics（熱帯における持続可能な森林管理と環境インパクトの小さい伐採に関するシンポジウム）/July 1997, Santa Cruz, Bolivia

1.06.00（オークの改良と育林）：Workshop on Improvement and Silviculture of Oak（オークの改善と造林に関するワークショップ）/Jul 27-30 1997, Freiburg, Germany

1.12.00（P1.14-00）（択伐林・異齢林）：Uneven aged Silviculture Workshop-Field Tour（異齢林の育林に関するワークショップ-現地見学）/Sep 15-26 1997, Corvallis, Oregon, USA

1.07.05（熱帯雨林の天然更新）：Tropical Secondary Forests：Science, People and Policy（熱帯2次林：その科学，人々と政策）/Nov 1997, Costa Rica

1.13.00（森林植生管理）：3rd International Vegetation Management Conference-Forest Vegetation & Ecosystem Sustainability（第3回国際植生管理会議-森林植生と生態系の持続性）/Aug 24-28 1998, Sault Ste. Marie, Ontario, Canada

Interdivisional Meeting Div. 1＋Div. 8：Forest Ecosystems and Land Use in Mountain Areas（山地帯の森林生態系と土地利用）/Oct 12-17 1998, Seoul, Korea

1.07.05（熱帯雨林の天然更新）；1.05.08（天然林の更新）；3.05.00 / 6.01.00 / 8.01.00 / 8.07.00；CATIE / WWF / CIFOR：New Approaches to Integrated Management of Primary and Secondary Forests for the 21 st Century（21 世紀のための原生林と2次林の総合的管理への新しいアプローチ）/? 1998, Belem, Para, Brazil

Divition 2　生理および遺伝

2.01.12（樹冠過程）；2.01.15（個体レベルの植物全体の生理学）：Workshop on Forests at the Limits：Environmental Constraints on Forest Function（限界下にある森林に関するワークショップ：森林機能への環境圧迫）/May 11-17 1997, Mpumalanga Province, South Africa

2.04.07（体細胞遺伝学）；2.04.06（森林樹木の分子遺伝学）：Molecular Genetics of Forest Trees and Somatic Cell Genetics（樹木の分子遺伝学および体細胞遺伝学）/Aug 13-16 1997, Quebec, Canada

2.08.03（ユーカリの改良と培養）：Silviculture and Genetic Improvement of Eucalypts（ユーカリに関する造林と品種改良）/Aug 24-29 1997, Salvador, Brazil

2.02.11（ノルウェー・トウヒの育種と遺伝資源）：6th Symposium "Genetics and Breeding of Norway Spruce"（ノルウェー・トウヒの遺伝と育種に関する第6回シンポジウム）/Sep 1-7 1997, Stara Lesna, High Taras, Slovakia

2.08-05（S2.02-22）（コナラ属の遺伝学）：Genetics of Oaks（オークの遺伝学）/Oct 12-17 1997, State College Pennsylvania, USA

2.02.19（ラジアータ松の産地と育種）：Pinus radiata Breeding and Genetic Resources（ラジアータ松の育

種と遺伝資源)/Dec 1-4 1997, Rotorua, New Zealand

2.04.08 (細胞遺伝学) : Cytogenetics (細胞遺伝学)/Sep 6-12 1998, Graz, Austria

Division 3 森林作業と技術

3.11.00 (P3.08.00) (森林作業と環境保護) : Forest Operations and Environmental Protection on Peatlands (泥炭地における森林作業と環境保護)/May 26-30 1997, Kannus Research Station, Western Finland

All Division 3 : Division 3 mid-term meeting (Division 3 中間会議)/May (?) 1997, China, Taipei

3.09.00 (間伐の経済学と収穫) ; 1.07.00 (熱帯造林) ; BOLFOR : New Harvesting Techniques in Thinnings (間伐における新しい集材技術)/June 3rd, Jonkoping, Sweden

3.00.00 (森林作業と技術) ; 1.07.00 (熱帯造林) : Symposium on Sustainable Forest Management and Low-impact Logging in the Tropics (熱帯における持続可能な森林管理と環境インパクトの小さい伐採に関するシンポジウム)/July 15-20 1997, Santa Cruz, Bolivia

Kyoto University ; 3.08.00 (P3.04.00) (私有林経営) ; 6.11.02 : Sustainable Management of Small Scale Forestry (持続可能な私有林経営)/Sep 8-13 1997, Kyoto, Japan

3.11.02 (P3.08-02) (不毛地帯での森林作業) : Low Impact Harvesting in the Tropics (熱帯における環境インパクトの小さい収穫作業)/Sep 1997, Brazil

3.06.00 (山岳条件での森林作業) 3.07.00 (P3.03-00) (労働科学) ; FAO : Forest Operations in Himalayan Forests with Special Consideration of Ergonomic & Socio-Economic Problems (労働科学及び社会経済問題に配慮したヒマラヤ地方の森林における林業作業)/Oct 20-27 1997, Thimphu, Bhutan

3.07.00 (P3.03-00) (労働科学) ; S3.06.00 ; 3.11.00 (P3.08-00) ; FAO : Forestry Work (林業労働)/? 1997, Concepcion, Chile

FAO/ECE/ILO ; 3.07.00 (P3.03-00) (労働科学) ; S 3.04.02 : Working Conditions and Increasing Profit (作業環境と収益の増加)/? 1997, Eastern Europe

3.11.01 (P3.08.01)(林業作業に起因する環境インパクト) : Open Theme (オープンテーマ)/June 1998, Congo

3.09.00 (間伐の経済学と収穫) : Meeting on Management Alternatives of Thinning Stands from Harvesting and Economical Point of View (収穫及び経済学的観点からみた間伐林管理に関する会議)/Sep 1998, Ireland

3.11.01 (P3.08.01) (林業作業に起因する環境インパクト) : Soil, Tree and Machine Interactions, Part 2 (土壌, 樹木と機械の相互関係 Part2)/Sep 1998, Germany

Division 4 資源調査, 成長, 収穫, 計画経営科学

4.02.00 (森林資源調査とモニタリング) ; 4.02.03 : Forest Vegetation Simulator (FVS) Conference (森林植生シュミレーション会議)/Feb 3-7 1997, Fort Collins, Colorado, USA

4.01.00 (測定, 成長および収穫量) : Empirical and Process-based Models for Forest Tree Stand Growth Simulation (森林樹木の成長予測シュミレーションに関する経験的, プロセスモデル)/Apr 14-17 1997, Lisbon, Portugal

4.13.00 (経営, 社会および環境勘定) ; 4.04.02 (経営経済学) : Accounting and Managerial Economics for an Environmentally-friendly Forestry (環境にやさしい林業のための会計, 経営経済学)/Apr 20-23 1997, Nancy, France

4.02.00 (森林資源調査とモニタリング) ; 4.01.04 (樹木・林分のシュミレーションのための成長モデル) ; EFI : Institute for Forestry & Nature Research ; Dept. of Forestry, Wageningen Agricultural University : Forest Scenario Modelling for Ecosystem Management at Landscape Level (景観レベルでの生態系管理のための森林モデル化)/June 26 - July 3 1997, Wageningen, The Netherlands

4.02.06 (北方地域の資源データ) : Workshop on Unified Classification of Boreal Forests (北方森林の統一的分類に関するワークショップ)/Aug 1997, Khabarovsk, Russia

4.01.00 (測定, 成長および収穫量) : Modelling Growth of Fast-grown Tree Species (早生樹の成長のモデル化)/Sep 3-5 1997, Valdivia, Chile

Division 5 林産物

All-Division 5 Conference : Forest Products for Sustainable Forestry (持続可能な林業のための林産物)/July 7-12 1997, Pullman, Washington, USA

5.01.00 (材質) : IUFRO/CTIA International Workshop : Timber Management Toward Wood Quality

and End-Product Value (IUFRO/CTIA 材質と最後産物価値の向上に向けた，木材管理に関する国際ワークショップ)/Aug 18-21 1997, Quebec City, Canada

Technical University in Zvolen, Division 5 : Forest Wood Environment 97 (森林・木材・環境97)/Sep 9-11 1997, Zvolen, Slovakia

5.01.00 (材質) : The Significance of Microfibril Angle to Wood Quality (材質に対するミクロフィブリル傾角の重要性)/Nov 21-26 1997, Wesport, New Zealand

Division 6 社会，経済，情報および政策科学

6.12.00 (森林政策と管理) ; European Forest Institute (EFI) : Future Forest Policy in Europe-Baklancing Economic and Ecological Demands (ヨーロッパにおける将来の森林政策-経済及び生態的要求のバランス)/June 15-18 1997, Joensuu, Finland

6.03.04 (ラテンアメリカ及びカリブ海沿岸林業情報ネットワーク) : 4th Conference of the Latin America and Caribbean Forestry Information Systems Network (第4回ラテンアメリカ及びカリブ海沿岸林業情報ネットワーク会議)/Aug 24-29 1997, Salvador, Brazil

Kyoto University ; 3.08.00 (P3.04.00) (私有林経営) ; 6.11.02 : Sustainable Management of Small Scale Forestry (持続可能な私有林経営)/Sep 8-13 1997, Kyoto, Japan

6.12.03 (総合的土地利用と森林政策) : The Role of Forests and Forestry in the Process of Rapid Land Use Changes : Impacts on Sustainable Development (急激な土地利用変化過程における森林と林業の役割：持続可能な発展へのインパクト)/Oct 15 1997, Antalya, Turkey, Satellite meeting to the World Forestry Congress 1997

All Division 6 Meeting : Contributions of Science to the Development of Forest Policies (森林政策の進歩に対する科学の貢献)/Jan 7-15 1999 Pretoria, South Africa

Division 7 森林の健全性

7.02.02 (葉および新芽の病害) : Working Party 7.02.02 Meeting (作業グループ会議)/May 25-31 1997, Quebec City, Canada

7.02.02 (S2.06-02 and S2.06-04)(葉および新芽の病害) : Working Party Meeting (ワーキングパーティー会議)/? 1997, Newfoundland, Canada

7.03.00 (S2.07-00) (昆虫学) ; CONAF ; FAO ; INFOR ; SAG ; Universidad de Chile : International Forest Insect Workshop (国際森林昆虫ワークショップ)/Aug 18-21 1997, Pucon, Chile

7.01.01 (病原体への抵抗性) ; 7.01.02 (昆虫への抵抗性) ; 7.01.03 (動物への抵抗性) ; 7.01.05 (抵抗性発現の環境影響) : Physiology and Genetics of Tree Phytophage Interactions (樹木と植食動物の相互関係における生理と育種)/Aug 31- Sep 5 1997, Arcachon, France

7.02-01 (S2.06-01) (根腐れ・根株腐朽病) : Ninth Conference on Root and Butt Rots (第9回根系と根株の腐朽に関する集会)/Aug 31 - Sep 8 1997, Nancy or Bordeaux, France

Division 8 森林環境

8.02.00 Site (8.02.01 ; 8.02.02 ; 8.02.03 ; 8.02.04 ; 8.02.05) ; 1.05.00 (1.05.15) (森林の造成，施業，改良) ; 1.17.00 (1.17.15) : Managing Productivity in Plantation Forestry (人工造林における生産性管理)/May 5-9 1997, Concepcion, Chile

Working Group on Prediction of Rapid Landslide Motion of the International Union of Geological Science ; Japanese Ministry of Education, Science, Culture and Sports ; Shaanxi Provincial Government, China ; IUFRO Division 8 ; Japan Landslide Society : IDNDR International Symposium on Landslide Hazard Assessment (地すべり災害予測に関する国際シンポジウム)/July 13-16 1997, Xian, China

Gansu Society on Landslides and Debris Flows ; Japan Landslide Society ; Korean Geotechnical Society ; IUFRO Division 8 : North-East Asia Symposium and Field Workshop on Landslides and Debris Flows (地すべりと土石流に関する北東アジア・シンポジウム及び現地ワークショップ)/July 17-23 1997, Wuhan-Congquin-Lanzhou, China

IUFRO Division 8 Meeting : Forest Environment in Changing World (変動する世界における森林環境)/Aug 11-15 1997, Yogyakarta, Indonesia

8.04.00 (自然災害) : Prevention of Natural Disasters, Research and Technical Aspects (自然災害防止に関する研究・技術展望) : Aug 11-15 1997, Yogyakarta, Indonesia

8.04.00 (自然災害) : Natural Disasters-Protection & Environmental Functions towards the 21st Centry

(自然災害-21 世紀へむけての保護と環境機能)/Oct 13-22 1997, Antalya, Turkey

8.03.02, UNESCO, FAO/EFC, IAHR, IECA, WASWC, IAHS : Headwater Control IV : Hydrology, Water Resources and Ecology in Headwaters (源流域管理その 4 : 源流域における水文学, 水資源と生態)/April 20-23 1998, Meran/Merano, Northern Italy

European Forestry Commission ; Working Party on the Management of Mountain Watersheds, IUFRO 8.04 (自然災害) : FAO/IUFRO Joint Symposium (FAO/IUFRO 合同シンポジウム)/May 4-8 1998, Marienbad, Czech Republic

8.04.01 (渓流侵食とその抑制) ; 8.04.05 (災害予知マッピング) : Workshop "Hazard Mapping in Torrent Watersheds" (豪雨流域での災害予知マッピングに関するワークショップ)/May 11-14 1998, Salzburg, Austria

8.04.01 (渓流侵食とその抑制) : International Workshop on Planning of Dangerous Areas & Field Tours (危険地域の策定に関する国際ワークショップ及び野外巡検)/May 1998, Pinzgau, Salzburg, Austria

8.03.04 (森林への風のインパクト) : Wind and Other Abiotic Risks to Forests (風及び他の無機環境の森林への危険性)/August 1998, Joensuu, Finland

Interdivisional Meeting Div. 8 and Div 8.01.00 (生態系) : Forest Ecosystem and Land Use in the Mountain Areas (山地帯における森林生態と土地利用)/Oct 12-17 1998, Seoul, Korea

1.07.05 (熱帯雨林の天然更新) ; 1.05.08 (天然林の更新) ; 3.05.00 / 6.01.00 / 8.01.00 / 8.07.00 ; CATIE / WWF / CIFOR : New Approaches to Integrated Management of Primary and Secondary Forests for the 21 st Century (21 世紀のための原生林と二次林の総合的管理への新しいアプローチ)/? 1998, Belem, Para, Brazil

Other Meetings その他集会

CSIRO Division of Plant Industry, Co-operative Research Centre for Plant Science, North Eucalypt Technologies : 2nd International Wood Biotechnology Symposium (第 2 回国際木材生化学シンポジウム)/March 10-12 1997, Canberra, Australia

Forest Products Society : Composite Materials Symposium (Technical Forum at the 31st International Particleboard) (接合材料シンポジウム : 31 回国際パーティクルボードに関する技術フォーラム)/April 8-10 1997, Pullman, Washington, USA

Forest Products Society : Eastern Hardwood Resources, Technologies, and Markets (東海岸広葉樹資源, 技術と市場)/ April 21-23 1997, Harrisburg, Pen., USA

Institute of Foresters of Australia ; New Zealand Institute of Forestry : ANZIF Coference "Preparing for the 21st Century" ("21 世紀への準備" 会議)/ April 21-23 1997, Camberra, Australia

European Geophysical Society : Techniques and Tools for Mapping Natural Hazards and Risk Impact on the Developed Environment (自然災害と開発環境への危険度を図化するための技術と手法)/April 21-25 1997, Vienna, Austria

Hellenic Forestry Society : Multiple Use of Resiniferous Forests (樹脂分泌林の多目的利用)/May ? 1997, Thessaloniki, Greece

Forest Products Society ; USDA Forest Service ; University of Wisconsin ; University of Tronto : 4 th International Woodfiber-Plastic Composites Conference (第 4 回国際木質繊維-プラスチック化合物会議)/May 12-14 1997, Madison, Wisconsin, USA

The Standing Committee on Commonwealth Forestry : 15th Commonwealth Forestry Conference (第 15 回連邦林業会議)/May 12-17 1997, Victoria falls, Zimbabwe

National Board of Forestry, Skogforsk ; Swedesh University of Agricultural Sciences : Biodiversity in Managed Forests (管理された森林の生物多様性)/May 29-31 1997, Uppsala, Sweden

Chinese-German Afforestation Project, Shanxi Province, P.R. China : Iternational Symposium on Afforestation in Semi-arid Regions (半乾燥地における造林に関する国際シンポジウム)/June 1-6 1997, Datong, PR China

Russian Academy of Natural Sciences ; Administration of the Ostashkov Region ; Academy of Tourism ; JSC "Moscow" ; Ecotur ; Ecoles et. al. : International Seminar "Organization of Forestry, Hunting, Amateur Fishing, Ecotourism and Prerserve Buisiness (林業, 狩猟, 釣り, エコツーリズムと自然保護産業の組織化に関する国際セミナー)/June 2-7

1997, Verkhnevolzhskii Region, Russia

the University of British Columbia and Forintek Canada Corporation : 13th International Wood Machining Seminar (in conjunction with the 50th Anniversary Meeting of the Forest Products Society (第13回木材加工セミナー：木材学会第50回記念大会共催)/June 17-20 1997, Vancouver, BC, Canada

Forest Products Society : Forest Products Society 1997 Annual Meeting (木材学会1997年次大会)/June 22-26 1997, Vancouver, BC, Canada

International Boreal Forest Research Association : Disturbance in Boreal Forest Ecosystems : Human Impacts and Natural Processes (極地森林生態系における攪乱：人為インパクトと自然過程)/Aug 4-8 1997, Duluth, Minnesota, USA

Technical University in Zvolon, Division 5 : Forest Wood Environment 97 (森林・木材・環境97)/Sep 9-11 1997, Zvolen, Slovakia

FAO, Turkish Ministry of Forestry : XI WORLD FORESTRY CONGRESS (第11回世界林業会議)/Oct 13-22 1997, Antalya, Turkey

INTECOL (International Association of Ecology) ; Italian Society of Ecology, Regional Gogernment of Tuscany : International Cogress on Ecology (第7回国際生態学会)/Jul 19-25 1998, Florence, Italy

British Society for Plant Pathology : 7th International Congress of Plant Pathology (第7回国際植物生理学会)/Aug 9-16 1998, Edinburgh, UK

ISSS : 16th World Congress of Soil Science (第16回国際土壌科学会議)/Aug 20-26 1998, Montpellier, France

IUFRO-J 事務局からのお知らせ

1. IUFRO SylvaVoc プロジェクト対応について

小林富士雄元IUFRO理事から前号（No. 59）で報告いただきましたように，上記プロジェクトについてはIUFRO-J事務局が日本側カウンターパートとして対応しております。昨年11月にはIUFRO本部から交付金があり，国内での作業体制を検討するため，去る1月22日，東京大学農学部で関係者会議（SylvaVoc-J委員会）を開催いたしました。

なお，会議の設定に尽力賜りました鈴木和夫先生，小林富士雄先生に深く御礼申しあげます。

会議は，IUFRO-Jから大貫仁人議長（森林総研），池田俊彌幹事（森林総研），森貞主事（森林総研），IUFRO役員から小林富士雄元理事（日林協），鈴木和夫理事（東京大），日本林学会から，木平勇吉会長（東京農工大），真島征夫総務担当理事（森林総研），日本木材学会から岡野　健会長（東京大），滝　欽二渉外担当理事（静岡大）が出席しました。

大貫議長の挨拶に続いて，小林元理事からこれまでの経過，池田幹事長からSylvaVoc対応組織・財政案と当面の対応案，鈴木理事から昨年の理事会でのSylvaVoc関連話題について説明をうけ，SylvaVocプロジェクト対応について討議いたしました。

その結果，鈴木理事がSylvaVocプロジェクト日本側責任者，小林元理事が顧問，池田IUFRO-J幹事が事務局となり，各学会代表，担当者を委員とするSylvaVoc-J委員会を構成することにしました。

現時点では，実際の作業内容が明確になっておりませんが，このプロジェクトが2000年を目標に進められおり，長期的な視野にたって対応する必要があるため，今後，各学会内で対応の仕方について検討いただくことになりました。ただし，IUFRO本部ではForest Managementに関する用語集の刊行計画が先行しているため，この分野に関する対応について日本林学会を中心として早急に対応していただく方々の人選に入ることが了承されました。

4月中旬にはIUFRO本部Dr. Robert Szaro (SPDC Coordinator), Ms. Renate Prueller (SylvaVoc事務局）が日本側との打ち合わせのため来日されますが，この件については，主として鈴木理事に対応をお願いすることになりました。

次回のSylvaVoc-J委員会を，Ms. Prueller来日時に開催し，作業の枠組みを明らかにして，IUFRO-J事務局から日本林学会，日本木材学会へ具体的な作業をお願

いすることとし，事務局では来日までにできるだけ本部と連絡をとって，作業内容の検討を進めることとなりました。

今後，会員の皆様へは各学会を通じて協力要請が行われると思われますので，よろしくお願いいたします。

また，SylvaVoc-J の活動につきましては，IUFRO-J News を通して会員の皆様にお知らせいたします。

○用語集紹介のお願い

IUFRO-J 事務局では，SylvaVoc プロジェクト対応の一環として，森林，林業，林産業に関する用語集のリスト作りを考えております。各専門分野に関わる用語集，及び用語に関する論説記事を事務局に紹介していただければ幸いです。

○御　礼

元京都大学杉原彦一先生から「木材工学辞典」を提供していただき，SylvaVoc 本部へ送付いたしました。ご協力に感謝し，御礼申し上げます。

（文責：森貞和仁）

2.　機関代表会議開催のお知らせ

平成 9 年度機関代表会議を下記の要領で開催いたします。

日時：4 月 2 日 12：00～13：00

場所：九州大学農学部 2-621 号室

議題（案）

1.　平成 8 年度事業報告
2.　平成 8 年度会計報告
3.　平成 8 年度会計監査報告
4.　平成 9 年度事業計画案
5.　平成 9 年度予算案
6.　役員選出
7.　その他

3.　おたづね

事務局では下記の出版物をさがしております。もし，会員の方で譲っていただける方がいらっしゃいましたら，事務局までご一報ください。

The Current State of Japanese Forestry (II) 1982
〃 (V) 1986

IUFRO-J News No. 60　　平成 9 年 2 月 21 日
国際林業研究機関連合日本委員会事務局
茨城県稲敷郡茎崎町松の里 1　森林総合研究所内
TEL 0298-73-3211 (232)　〔編集・発行〕